

グローバル社会からの期待と信頼に応えるために、培ってきた「資産」を、さらに磨き続けます。

UACJグループは、これまで培ってきた「技術力」や「ものづくり力」を発揮して新たな価値創造に努めるとともに、地球環境への配慮をはじめとした、社会と調和した企業経営を推進していきます。

また、これらの取り組みをはじめ、事業活動のあらゆる段階を通じて、価値創造の担い手となる人材の活用と育成を重視し、一人ひとりがその実力を十分に発揮できる環境づくりに努めています。



技術とものづくり



研究開発

アルミニウムの新たな可能性を追求

アルミニウムは発見から200年、工業生産の開始から120年あまりという“若い素材”であり、いまだ多くの知られざる特性を秘めています。UACJグループは、こうしたアルミニウムの特性の発現に挑むとともに、お客様の多様なニーズにお応えするため、材料設計・生産プロセスに関する基盤技術の開発から、製品開発、さらには利用技術開発まで、トータルな研究開発を進めています。また、世界最先端の研究機関とも積極的に連携し、新たなイノベーションの創出を目指しています。

グループの研究開発拠点である「技術開発研究所」を軸に

「技術開発研究所」は、UACJグループの技術開発の「要」として、グループ共通、および各社の抱える課題の解決はもちろん、その成果を最大限にすべく研究開発を担っています。統合前の拠点を集約することで、お客様のニーズに迅速にお応えするとともに、時代を一步先取りした革新的な製品・技術開発を目指しています。

また、解析・分析センターとしての機能も兼ね備えており、最新鋭の透過電子顕微鏡をはじめとする組織解析や成形試験などの評価装置を取り揃えています。



技術開発研究所

2014年度からは、UACJグループの研究成果や新製品・新技術を紹介するツールとして、年1回「UACJ Technical Reports」を発行しています。

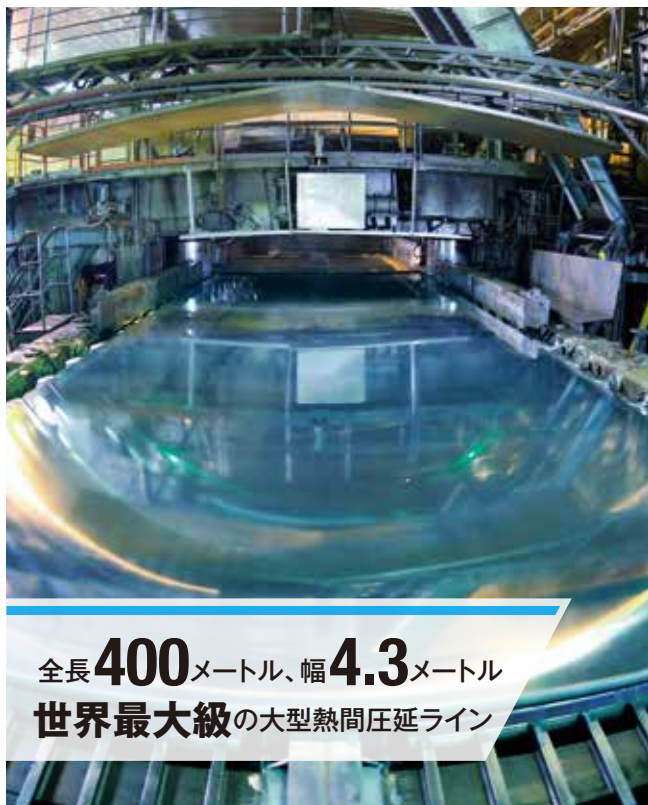
生産

世界に誇る、生産設備

UACJグループの競争力の源となっているのが、世界でも有数の生産設備群による“ものづくり力”です。熱間・冷間圧延から押出、鋳造、鍛造まで、業界屈指の大規模設備を駆使して、他社にはできない大型製品の製造や、効率性の高い大量生産を実現しています。

たとえば、主力工場である福井製造所の熱間圧延ラインには、全長400メートル、幅4.3メートルに及ぶ、世界最大級の大型圧延機を有しており、板厚を自動で制御する「AGC(自動板厚コントロール)システム」によって高品質な圧延を実現。LNG船用部材や航空宇宙用途など、超幅広で均一なアルミニウム厚板が求められる分野で活躍しています。加えて、原料の溶解工程には国内最大級の大型トップチャージ溶解炉、圧延後の矯正工程には国内最大級となる5,600トンの引っ張り能力を持つストレッチャーを導入し、業界屈指の品質を実現しています。

また、鋳鍛工場では国内最大の規模を誇る1万5,000トンの大型鍛造プレス機が稼働。飲料缶の蓋材ラインでは、アルミニウム板コイルのひずみ矯正から表面処理、塗装・焼付、表面検査、欠陥部マーキングまでを高速で一貫処理する業界初の塗装ラインが稼働するなど、各事業拠点それぞれが最先端の設備を有しています。



全長**400**メートル、幅**4.3**メートル
世界最大級の大型熱間圧延ライン

生産の最適化で、統合シナジーを創出

国内有数のアルミニウムメーカー2社が統合したことで、生産能力がさらに増強されました。統合のシナジーをより効果的に発揮していくため、各拠点で重なっていた生産品種については、拠点ごとの設備能力や特徴を踏まえて整理・移管を進めることで、グループ全体で最適な生産配分を実現しています。

福井製造所は缶材とLNG船用厚板を中心に、名古屋製造所は自



世界最高水準の
板厚制御技術

動車材や印刷版用板材、フィン材などを総合的に担い、深谷製造所はLNG船用を含めた厚板主体、そして日光製造所は仕上工程専門と、拠点ごとに生産品種を絞り込むことで、生産効率とコスト競争力を高め、利益体質の強化につなげていきます。

安定供給という責任を果たし続けるために

近年では、経済発展を背景に、新興国を中心としてアルミニウムの需要が拡大しています。なかでも急増しているのが東南アジア周辺地域ですが、日本や中国、韓国などを除いては、まだまだ供給力も不足しています。

UACJグループは、こうした旺盛な需要に対し、メーカーとしての供給責任を果たし続けるため、日本、タイ、米国を基軸にしたグローバル供給体制の強化を推進しています。なかでもタイでは、2012年から日本のアルミニウム圧延メーカーとして初となる「海外一貫生産工場」の建設を進めてきました。2015年夏には一貫生産体制が確立し、今後もアジアにおける中核拠点として、さらなる増強を計画しています。

品質管理

お客様の求める確かな品質を実現するために

UACJグループでは、品質担当役員が委員長を務める「品質委員会」がグループ全社の品質管理を統括するとともに、事業セグメントごとに品質管理組織を設定し、各組織が本社技術部とベクトルを合わせながら、品質管理活動を推進する体制をとっています。この体制のもと、「品質基本方針」および「年度品質管理方針」に基づき、事業ごとに品質改善活動を推進しています。たとえば圧延品では、鑄造、熱間圧延、冷間圧延および仕上工程に最先端の制御技術を組み込み、業界屈指の品質を実現するとともに、独自のノウハウを結集した万全の品質保証体制を構築しています。なかでも、多くの人命を預かる航空機用の厚板については、航空機メーカーからの厳しい品質要求に応えるため、航空宇宙品質マネジメントシステムの国際統一規格である「AS9100」の認証を取得し、世界でも数少ない認定工場として指定されています。

さらに、これら国内拠点で培った品質管理の技術・ノウハウを、海外拠点にも展開していくことで、グローバル市場における信頼感をさらに高めていきます。

人材活用と教育



人材育成

「世界的な競争力を持つ アルミニウムメジャー会社」の実現に向けて 人材を継続的に育成

UACJグループが求める人材とは、経営統合の目的である「世界的な競争力を持つアルミニウムメジャー会社へ」をはじめ、経営理念や行動指針を理解したうえで、その実現に向けて、現状維持ではなく、不断の改善と変革を追求できる人材にほかなりません。

そのために必要となる具体的なスキルや資質としては、「異なる文化を理解し、グローバルで活躍できる人」「UACJベストの観点から行動できる人」「品質・技術にこだわり現場本意で行動できる人」などが挙げられます。

こうした力を発揮し、グループの競争力の源泉となる人材の継続的な育成に向けて、従業員一人ひとりが成長を実感でき、働きがいを感じられる職場を実現していきます。

「従業員一人ひとりの学び」を基本として

UACJグループでは、人材開発・育成の専門組織として人材開発部を設置し、グループ各社における人材開発・育成のための施策が有効に機能するよう支援しています。

人材開発育成の基本は、「従業員一人ひとりの学び」にあります。これは、「仕事で学ぶ」「研修で学ぶ」「自ら学ぶ」という「3つの学び」を通して、一人ひとりがそれぞれの役割に応じて求められる人材像を目指すことであり、成長を実感しながら会社に貢献していくことです。

その実現に向けて、従業員自身の成長への意欲を重視するのはもちろん、各職場の上司は「仕事を通して部下を育成する」こと、経営層は「組織で人を育てる」ことを、自らの責務として強く意識し、新入社員研修や階層別研修をはじめ、学ぶ機会や成長機会の提供に努めています。

2014年度の階層別研修の受講者数(人)

	UACJ本体	関係会社	計
管理職	64	60	124
スタッフ系	144	36	180
技能系	192	205	397
計	400	301	701

グローバル人材の育成を目指して

UACJグループでは、行動指針の一つに「常にグローバルかつ長期的な視野を持ち、あらゆる環境変化に柔軟に対応し、グローバル化にあたっては、各国の法律・文化・習慣を尊重し、その社会の発展に寄与します。」と掲げており、これらを実践できるグローバル人材の育成に努めています。

その一環として、グローバルな仕事の進め方を英語でのカリキュラムを通じて習得するビジネススキルセミナーを実施しています。また、UATHラヨン製造所から国内拠点に研修生を招いて技術研修や管理者研修を実施するなど、海外拠点における現地従業員の育成にも注力しています。

今後は、海外グループ会社で採用した現地人材を対象とした教育体系を具体化していく予定です。

ダイバーシティの推進

人材の多様性をグループ全体の成長力に

UACJグループは、新規分野への取り組みや、グローバルな事業展開を支える観点から、性別や年齢、国籍、障がいの有無などを問わず、多様な人材の採用を積極的に進めています。2014年度は総

合職18名(男性16名、女性2名)、技能系21名(男性21名)の新卒者を採用しました。外国籍人材の採用にも積極的に取り組んでおり、2011年度以降、延べ6名を採用しています。

女性の雇用機会の拡大や、女性管理職の登用にも注力しており、2014年度末時点では、グループ全体で69名^{※1}の女性管理職が活躍しています。

また、障がいのある方への就業機会の提供は社会的責任と捉えており、2015年4月には障害者の職域拡大を目的に、特例子会社であるUACJグリーンネットの新拠点として名古屋事業所を開設しました。2015年6月1日時点で、UACJの障がい者雇用率は2.33%^{※2}で、法定雇用率2.0%を上回っています。

さらに、積極的に高齢者の再雇用を進めることで、熟練者の技能・技術・ノウハウの伝承を進めており、2015年4月末現在で215名が就労しています。

※1 連結対象子会社以外のUACJグループ会社を含む

※2 雇用率は、特例子会社制度で認められたUACJグリーンネット(特例子会社)、UACJ製箔(子会社)をUACJに合算して算定



労働安全衛生の確保

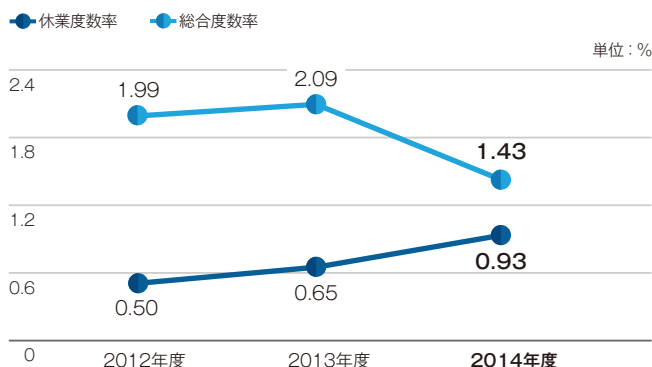
従業員が安心して働ける労働環境づくりを

UACJグループは、「従業員の安全・衛生・健康はすべてに優先する」という考えのもと、全員参加による安全衛生活動を推進。労働に関する法令や社内規則を遵守するとともに、各事業拠点の総括安全衛生管理者を中心とした安全衛生管理体制を構築しています。

また、名古屋、福井、深谷、日光の4製造所では、労働安全衛生マネジメントシステムを導入・運用して、「危険ゼロ職場の実現」に向けた取り組みを継続的に実施しています。具体的には、グループの「安全衛生活動方針」を受けて、各製造所が活動計画を作成し、各所長の承認および安全衛生委員会の審議を経て実行しています。

2014年度の労働災害発生状況は、休業度数率は0.93、総合度数率は1.43でした。

労働災害の発生状況



人権の尊重と多様な働き方

従業員一人ひとりが生き生きと働ける環境づくり

UACJグループでは、従業員一人ひとりがお互いの人権・人格を尊重しながら、安心して働ける企業風土づくりに努めています。人権問題の未然防止や早期対処に向けて、階層別教育や行動規範に関する部内教育などで周知徹底に取り組むとともに、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントなどに関する相談窓口を設けています。

また、従業員のライフスタイルを尊重し、会社生活と家庭生活をともに充実できるように、育児休業制度をはじめとした各種支援制度を用意するとともに、男性従業員も含めて制度を利用しやすい環境づくりに努めています。

良き企業市民であるために

UACJグループは、多様なステークホルダーとのコミュニケーションを通じた信用・信頼の獲得をCSR基本方針のひとつに掲げ、企業市民としてその実践に努めています。たとえば名古屋製造所で開催する「稲荷祭」やUACJ銅管の敷地内で開催する「夏祭り」など、毎年、地域とのコミュニケーションを深めています。このほかボランティア休暇制度を設け、従業員の自発的な参加ができる環境づくりに努めています。



名古屋製造所 稲荷祭の様子

環境対応

環境マネジメント

持続可能な社会の実現に向けて

UACJグループは、地球環境保全や循環型社会形成を経営上の最重要課題の一つとして位置づけ、環境に関わる法令や社内規則を遵守するとともに、事業活動のあらゆる面で環境負荷低減を目指しています。

グループ全体で環境経営を推進するため、「理念」と「行動指針」からなる「環境基本方針」のもと、各テーマで単年度目標を掲げて、事業活動における環境負荷低減を展開させる「UACJグループ環境管理方針」を策定。この方針のもと、製品の開発、製造、販売、使用、再生に至るライフサイクル全体を通じて地球環境への配慮に努めます。

環境経営の推進体制を整備

UACJグループでは、環境活動の推進と、従業員の環境意識向上を図るため、グループ横断的な組織として、環境担当役員を委員長とする「環境委員会」を設置。原則として年1回開催し、環境活動に関する方針および目標の審議を行います。この方針や目標を確実に推進していくための実行組織として「安全環境部」を設けています。

また、グループの各拠点で環境マネジメントシステムの運用を進めており、ほとんどの生産拠点でISO14001の認証を取得。一部の小規模拠点では、環境省の策定したガイドラインによる「エコアクション21」の認証を取得しています。各拠点では、マネジメントシステムに基づく取り組みを推進するとともに、認証の更新を継続していきます。

地球温暖化防止

生産工程をはじめ、あらゆる段階で省エネルギー化を推進

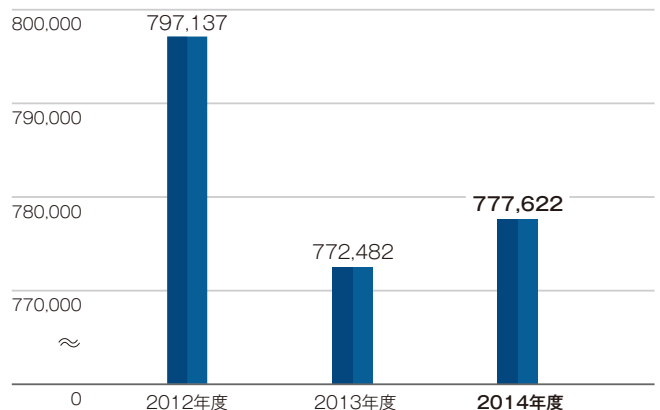
UACJグループは、地球温暖化の防止に寄与するため、生産工程はもちろん、物流工程やオフィスも含めて、事業活動のあらゆる段階で省エネルギー化に取り組んでいます。

なかでもエネルギー消費の大きい生産工程では、各拠点で生産効率向上や燃料転換などの取り組みを推進。経営統合以降進めている事業場間での生産品種移管の結果、生産効率が向上し、CO₂排出量、エネルギー使用量ともに単位生産量あたり(原単位)の実績が前年度から改善しました。

また、設備部門を中心に組織横断的な役割を果たす「省エネ分科会」を定期的で開催し、拠点間で情報を共有しながら有効な省エネ事例の水平展開を推進しています。

CO₂排出量推移

単位：t-CO₂/年



※集計範囲

UACJ(名古屋、福井、深谷、日光)、UACJカラーアルミ、UACJ押出加工名古屋(名古屋、安城)、UACJ押出加工小山、UACJ押出加工群馬、UACJ押出加工滋賀、UACJ鋳鍛、UACJ製箔(滋賀、野木、伊勢崎)、UACJ銅管

環境汚染防止

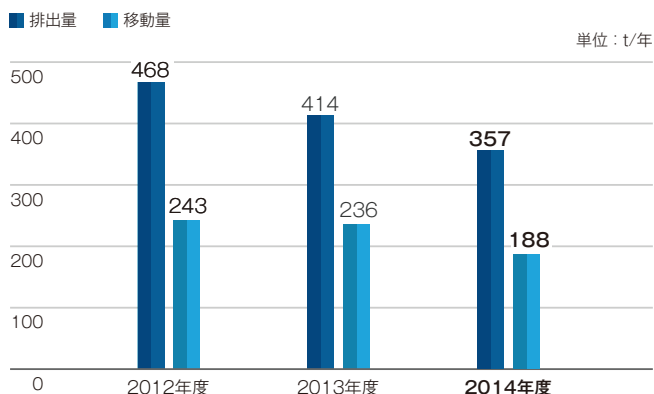
厳しい自主管理値を設定して 環境汚染物質の排出量を低減

UACJグループでは、生産活動にともなう大気や水質、土壌などへの汚染物質の排出について、法や条例、協定などで定められた基準値よりも厳しい自主管理値を設定し、その遵守に努めています。

また、化学物質の取り扱いについては、PRTR法*に従い、対象物質の取扱量・排出量・移動量を把握し、届け出を行うとともに、その使用削減に努めています。2014年度は、生産量が増加したものの、削減活動の成果が上がり、全対象物質を合計した排出量はグループ全体で前期比20.3%の削減となりました。

*特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律

PRTR物質の排出量、移動量の推移 (製品中の含有元素であるマンガン、クロム、ニッケル、鉛を含む)



※集計範囲

UACJ(名古屋、福井、深谷、日光)、UACJカラーアルミ、UACJ押出加工名古屋(名古屋、安城)、UACJ押出加工小山、UACJ押出加工群馬、UACJ押出加工滋賀、UACJ鋳鍛、UACJ製箔(滋賀、野木、伊勢崎)、UACJ銅管

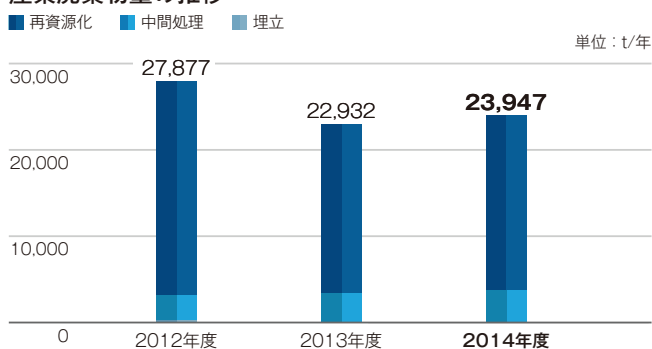
廃棄物削減

主要拠点でゼロエミッションを達成

UACJグループは、循環型社会の実現に向けて、産業廃棄物の削減を進めるとともに、全事業拠点でのゼロエミッション*達成を目標に、廃棄物の分別やリサイクル促進を図っています。2014年度の主要拠点の直接埋立処分比率は0.39%となり、目標を達成しました。今後も、ゼロエミッションの継続に努めます。

*全産業廃棄物発生量に対する直接埋立処分比率が1%以下であることをゼロエミッションと定義しています。

産業廃棄物量の推移



※集計範囲

UACJ(名古屋、福井、深谷、日光)、UACJカラーアルミ、UACJ押出加工名古屋(名古屋、安城)、UACJ押出加工小山、UACJ押出加工群馬、UACJ押出加工滋賀、UACJ鋳鍛、UACJ製箔(滋賀、野木、伊勢崎)、UACJ銅管

アルミニウム缶リサイクルの推進

アルミニウムの再生地金は、鉱石(ボーキサイト)から新地金を製造する場合の約3%のエネルギーで再生利用可能です。こうしたリサイクル性の高さを活かして、アルミニウム缶のリサイクルが進んでおり、現在ではリサイクル率が約9割に達しています。UACJグループは、アルミニウム製品のリーディングカンパニーとしての責任から、循環型社会の形成に向けたアルミニウム缶のリサイクル活動を支援しています。

環境調和製品の開発

環境負荷の少ない環境調和製品の開発に注力

UACJグループは、製品開発においても環境調和への高い意識を持って取り組んでいます。

近年では、アルミニウムの「軽くて丈夫」という特性を活かして、自動車など輸送機器の軽量化による燃費向上、エネルギー消費削減への貢献が期待されています。こうした社会の要請に応えるため、アルミニウム素材の性能向上に努め、軽量化しながら従来と同等の機能を提供できる製品開発に努めています。

また、「リサイクル性の高さ」という強みを最大限に発揮できるよう、よりリサイクルに適した缶材料の開発と実用化にも取り組んでいます。

この他にも、省エネルギーに貢献する高性能伝熱管の開発や、ノンフロン冷媒に対応したカーエアコン用材の開発、ハイブリッド自動車や燃料電池自動車用材の開発など、環境負荷の低減に寄与するアルミニウム製品の開発を、お客様との連携のもとに進めています。